

## 滋賀・野瀬遺跡

多数の遺構・遺物を発見した。

その中で寺院関連遺構として、奈良時代前期から平安時代中期にかけての掘立柱建物跡五棟以上・柵跡・井戸跡・土壙・小鍛冶工房跡などが検出された。遺物には、瓦・土器類をはじめ、風字硯・砥石・石帶・金銅製飾金具・鉄釘がある。また、二〇数点におよぶ墨書土器が出土しており、それらは「寺」「□□本寺」「西一坊」「東一方」「中國」「園」「造佛」「神」「屋」「赤」「京」「春」「封」と判読できる。

1 所在地 滋賀県蒲生郡蒲生町大字宮井字野瀬

2 調査期間 一九八四年(昭59)四月~一二月

3 発掘機関 蒲生町教育委員会

4 調査担当者 北川 浩

5 遺跡の種類 集落跡

6 遺跡の年代 弥生時代中期~平安時代末期

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

琵琶湖東岸に流れ込む日野川と、その支流である佐久良川との分岐点より、南五〇〇mに位置する当遺跡は、白鳳寺院跡である宮井廃寺跡の周辺に広がる集落跡である。一九八三年より

当遺跡周辺で実施された県営は場整備事業に伴い、廃寺跡の北部を中心約一五〇〇〇m<sup>2</sup>について発掘調査が行われた。

その結果、弥生時代中期から平安時代末期に至る、



(近江八幡)

木簡は、井戸より汲み上げた水を溜めたと考えられる摺鉢状をする大型土壙から、一〇世紀代の土器類と下駄・曲物・櫛・建築用材などの木製品とともに出土した。この他に、井戸跡から出土した木盤底部外面にも判読できないが三行・二〇数字の墨書きがある。

8 木簡の釈文・内容



(北川 浩)